

令和 4 年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立耐久高等学校（定時制） 校長名：大西 弘之

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

〈学校像〉 人とのつながりを大切にし、自分のペースで学び、明るく生きがいを持って自立を図る学校
 〈生徒像〉 ・自分自身を認め、明るく生きがいを持って生活できる生徒
 ・自立して生活するために必要な基礎的・基本的な学力を身につけた生徒
 ・他者を認め、社会の様々な人々とより良い関係を築くことができる生徒
 ・様々な人々と協力し、精一杯、家族や地域社会のために力を発揮する生徒
 ・今後の人生や将来について考え、ひたむきに努力する生徒

学校評価の公表方法

本校ホームページにおいて広く公表する

現状・進捗度	A	十分に達成している。（80%以上）
	B	概ね達成している。（60%以上）
	C	あまり十分でない。（40%以上）
	D	不十分である。（40%未満）

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（2月28日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	社会の一員として力を発揮するための、基本的な生活習慣の確立	C	担任が中心となって家庭との連携を密にし、可能な限り欠席や遅刻等を減少させる。	欠席・遅刻等が減少しているか。欠席・遅刻等をする場合は事前連絡ができていますか。	C	全体的に生徒の欠席・遅刻等は減少しているが、一部の生徒は欠席・遅刻等が多く、連絡がないこともある。	<ul style="list-style-type: none"> 学校が楽しいと思えるような、学校行事の計画や受け入れ体制の改善に取り組み、欠席・遅刻等の減少に努める。 挨拶が人と人をつなぐ大切な言葉であることを伝え、日々の習慣となるよう根気強く働きかける。 校外学習や外部講師等に接する場面を多く設定し、快適な社会生活を送るための、時と場に応じた適切な言動を身につけさせる。
			人間関係を円滑に運ぶため、登校時や下校時の挨拶指導に取り組む。	挨拶をはっきりと大きな声で行えているか。また、挨拶が日々の習慣になっているか。	B	進んで大きな声で挨拶をする生徒は少ないが、こちらからの挨拶には全ての生徒が挨拶を返してくれる。	
			社会のルールやマナーを守る態度を育成する上で、時と場に応じた言動を身につけさせる。	学校の決まりや約束事を守れているか。適切な言葉使いで人と接しているか。	B	授業中の問題行動は皆無であり、落ち着いて授業に取り組んでいる。式典等にも厳粛な態度で臨んでいる。	
2	自他を認め、人と豊かに関わろうとする態度の育成	D	授業や特別活動等、学校生活のあらゆる場面で自分の思いや意見を他者に伝えさせるとともに他者の思いや意見を共感して受け止めさせる。	学校の全ての教育活動において、教師と生徒、生徒同士の間でコミュニケーションが図られているか。	D	他者とコミュニケーションを取ることに積極的でない生徒が多く、授業や特別活動の場面においても自分の考えや思いを表現することが苦手である。	<ul style="list-style-type: none"> 教師による声かけの大切さを認識し、積極的にコミュニケーションを取ることで、生徒間での積極的なコミュニケーションの構築を図る。 校内に限らず、様々な人との関わりに自信が持てるような集団作り学習等を、積極的に計画する。 生徒が抱える課題等の把握に努め、毎日の振り返り情報交換会を継続し、生徒の情報共有に努める。また、スクールカウンセラー等を積極的に活用し、生徒の支援体制を確立する。
			集団作り学習等を通して、「人と関わることは苦痛なことではなく楽しいことである。」と実感させる。	集団作り学習等に積極的に参加しているか。	C	集団作り学習等への参加率は高まっているが、人と関わることに不安を感じる生徒は少ない。	
			生徒の抱える多様な課題に対応するため、全教職員による生徒支援体制の確立を図る。	毎日の振り返り情報交換会で生徒の情報共有ができていますか。必要に応じて、スクールカウンセラー等を活用できているか。	B	毎日の振り返り情報交換会で生徒の状況把握に務め、関係機関との連携や、スクールカウンセラー等によるカウンセリングを行った。	
3	社会で必要とされる基礎的・基本的な学力の養成	C	学び直しによる基礎学力と集中力の醸成を、基礎学習を中心に育成する。	基礎学習プリントに自分のペースで集中して取り組み、時間内に終わっているか。	B	基礎学習プリントへの取り組みを継続したことにより、集中力が高まり時間内に終わられる生徒が増えている。	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学習への取り組みを継続し、集中力を10分間継続することや、基礎学力の向上に努める。 生徒が持っている個性をいち早く把握し、全生徒が主体的に参加し理解できる授業を目指して、教材作成やICT機器の活用に取り組む。 多様な生徒の学びを保障するため、常に何が必要かを考え、実現可能な校内システムの研究を継続して行う。
			分かる授業及び生徒の主体的な参加を促す授業の工夫をする。	独自のプリント教材やICT機器を活用し、工夫した授業を行っているか。授業ノートや課題プリントへの書き込みや提出ができていますか。	B	生徒の適性に応じて、ふりがなや解説等を追記したプリント教材を作成した。ノートやプリントへの書き込みや提出、授業における質疑応答が概ねできるようになった。	
			今後の在り方として、多様な生徒の学びを保障するための校内システムの研究を行う。	現職教育等が実施されているか。	C	多様な生徒が在籍し、今後も増えることが予想できるため、現職教育等で校内システムの研究を行っている。	
4	将来の自分をより明確に描けるような進路指導の充実	C	進路講話・ガイダンス等の開催により、生徒の勤労観や職業観を育み、進路意識の高揚を図る。	進路希望調査により、正社員として企業等に就職する事を第一希望としているか。	C	卒業後の進路を漠然と捉え、正社員として就職することや、具体的な行動に移す生徒は多くない。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が卒業後の進路を具体的に描けるよう、進路講話やガイダンス等の内容を精査し計画する。 今後も個人面談や保護者を交えての面談を実施し、生徒や保護者の希望を丁寧に聞き取り進路指導に活かす。 ハローワークや外部機関等との連携を密にし、就業への意欲向上につながる情報を積極的に提供する。
			進路実現を図るために、保護者や家庭等と連携し、生徒個々に応じた進路指導を適切に行う。	生徒の進路希望について、個人面談や三者面談を実施し、丁寧に対応できているか。	B	生徒の進路希望を把握するため、個人面談や保護者を交えての面談を実施し、丁寧な進路指導を行っている。	
			ハローワークや地域のアルバイト先等と連携し、生徒に対し就職先等についての情報を適切に提供する。	具体的な求人票等に目を向けているか。	C	ハローワーク等と連携し、ファイリングした求人票やインターネットを活用した求人情報の提供を行い、就業への意欲向上に努めている。	

学校関係者評価（3月1日実施）

- 定時制を希望する生徒の高校教育保障として、本校の必要性やより一層指導の充実が重要であるとの意見を頂いた。
- 不登校傾向にあった生徒が登校できるようになるとともに、安定して学校生活が送れている。また、これまででは想像もできなかった式典等での積極的な生徒の姿に対して、担任を中心とした家庭との連携の取れた指導に対する評価を得た。
- 学校生活への取り組みが不安定な生徒に対して、継続的な働きかけと保護者や関係機関との連携により、安定した学校生活が送れるようになったことへの評価を得た。
- 本年度7名の卒業生が無事に卒業することになり、卒業生の保護者等から感謝の言葉を頂戴し、本校での高校生活が充実していることの評価を得た。
- 卒業後を見据えた、学校、家庭、行政等関係機関との連携と体制作りが必要である旨の提案を頂いた。